

取組名	危険回避に対する注意喚起		
特徴	生徒指導だよりを通じて、自分の身は自分で守る意識を高めさせる。		
学校名	県立岩国高等学校坂上分校	日時	平成25年10月

## 1 ねらい

本校は山間部に位置し、都市部に比べ比較的治安も良い。しかし、今年度、女生徒が不審者に嫌がらせを受ける事案があった。さらに、自転車盗難も増えているとの警察からの情報もあり、自転車へ鍵をかける習慣付けも必要だと感じている。また、クマやマムシなどへの注意も必要であり、生徒たちがより意識できるよう、生徒指導だより作成の工夫を行った。

## 2 概要

生徒の注意関心を引く「生徒指導だより」の作成に心がけ、危険に対する注意を促した。

**生徒指導だより No. 2** 山口県立岩国高等学校坂上分校 平成25年10月

**守ろう!**

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われます。朝晩はめっきり寒くなりましたが、まだまだ日中は暑い日が続いており、気温の変化が激しい時期です。体調には十分注意してくださいね。

さて、夏休み中には、三重県で花火大会の爆りに、女子中学生が殺害されるという事件もありました。日の入りも早くなっており、学校や帰宅が終わったら、すぐに帰宅するよう心がけましょう！

また、最近、岩国市内で自転車の盗難が増えているそうです。以下の点に注意してください。

<夏下校の安全確保>

- 1人で帰らない!
- 帰る前に家に電話をして、今から帰ることを伝える!
- 防犯ブザーを持つ!

(電池切れに注意)

<自転車盗難防止>

- 自転車には必ず鍵をかける!(家・学校)
- 2つ以上かけると効果的

3. 戦う・・・

クマをなめるな! →

★では、どうしたらいいの?

- むやみに騒がない。目をそらしたらいけない。
- 食べ物や物を置かず、後ずさりしよう。

クマを刺激してはいけません。

樹や木に隠しながら、ゆっくりと後退します。その際リュックや食べ物を静かに置き、クマの注意をリュックに向けさせ、その間に立ち去ります。

★クマに遭遇しないためには・・・

クマは東のこころ猛獣です。音のする方へは近づかないといえます。山に入るときには音の鳴るもの(鈴、ラジオなどを身につけます。ナタや熊よけスプレーなどの武器を持って行くのもよいでしょう。常に周りに気を払い、注意してください。(クマ避けの鈴はホームセンターなどで購入できます。)

\*ここに載せている対処法はごく一部です。

**マムシにも注意!!**

- 全長45-80cm。胴が太く、体形は太短い。
- 主に水場周辺に多く出現するが、これからの時期、日光浴で運路に出ることも多い。
- 8-10月に子供を噛むので、攻撃的になる。

●体の模様は銭形と言われ、10円玉の様な模様をしている。

●色は赤茶色っぽい。

**クマに注意!** <HP: <http://aafomc.naver.jp/odai/Z133462948715570801> 多引誠幹>

★もしもクマに遭遇したら・・・

1. 逃げる・・・

2. 音から言われている。死んだふりをする・・・

3. 戦う・・・

どれだけが絶対に正しいかわかりません!!

「食べるかな?」「なんだろうななんだろう」といって近づきます。鋭い爪や歯で刺さることを想像すると、死んだふりを決め込むことは出来なはずですが、

クマのスピードは時速約55kmといわれています。早いですが、一般人がクマのスピードに敵うはずがありません。諦めてください。ちなみに、ジャマイカのウサイン・ボルト選手の平均時速は約37.0kmだそうです。

無敵です!!

## 3 成果と今後に向けて

HPから抜粋し、絵を加えることで生徒たちが意識して読んでくれ、注意喚起は行えたが、一方で、依然として自転車の鍵をかけない生徒がほとんどである。今後も引き続き注意を促し、生徒が安心して安全な学校生活を送れるよう指導の徹底に努めたい。

取組名	普通救命講習		
特徴	宇部・山陽小野田消防局が開催する「普通救命講習」(出張講習)を、本校教職員対象に実施し、救命に必要な応急手当の手法を学ぶとともに、「普通救命講習Ⅰ」終了の資格を取得する。		
学校名	県立宇部中央高等学校	日時	平成25年10月15日(火) 13時30分～16時30分

## 1 ねらい

応急手当の意義について理解するとともに、心肺蘇生法やAEDを用いた除細動、気道異物除去、止血法などの応急手当の手順について、体験を通して習得し、活用できるようにするとともに、危機対応力の強化を図る。

## 2 概要

宇部中央消防署職員3名による「普通救命講習」を、以下の内容で実施した。

13:30～14:40 救命講習テキストを使用して、応急手当の必要性、救急車の呼び方、救命処置の手順、心肺蘇生(胸骨圧迫と人工呼吸)、AEDの使用手順、止血法等の講義。

14:50～16:00 3班に分かれて、救命処置の手順を全員が行った。

- ①反応を確認する。
- ②助けを呼ぶ。
- ③呼吸の確認をする。
- ④心肺蘇生(胸部圧迫と人工呼吸)を継続する。
- ⑤④とともにAEDを使用する。

16:00～16:30 講評及び質疑応答



## 3 成果と今後に向けて

- (1) 多くの教職員が積極的に参加し、救急車が事故現場に到着するまでに行う一次救命処置の大切さや心肺蘇生法とAEDを使用した最新の救命処置の流れ等を学び、全員が真剣に訓練に取り組んだ。
- (2) 3班に分かれて、それぞれのグループで消防署職員のアドバイスを聞きながら、全員が訓練人形とAEDを使用して、効率的に訓練を行うことができた。
- (3) 教職員同士でペアを組み訓練を行うことにより、一次救命処置が必要になった場合に、速やかに適切な行動をとるための組織としての訓練とすることができた。
- (4) 本校においては、9月25日にさす股を利用した防犯研修も実施している。今後とも、様々な機会を通して、危機対応力の強化を図っていきたいと考える。



取組名	専門家と連携した交通安全教室（交通移動教室）		
特徴	DVD視聴、講話、危険予測実験、ダミー人形の衝突実験を通じた交通安全教育		
学校名	県立下松高等学校	日時	平成25年9月19日（木）

## 1 ねらい

本校生徒の90%以上が通学に自転車を利用している。自転車に関する大きな事故（加害、被害とも）は発生していないが、交通安全意識の高揚を図り、安全な登下校ができるよう、山口県警及び下松警察署交通課の協力による安全教室を実施した。また、自転車に関連した危険予測実験等の安全学習を通して、学校生活全般における安全意識の高揚を図った。

## 2 概要

### ① 講話（約50分）

- DVD視聴・・・交通事故の悲惨さ、自転車の安全運転の在り方等
- 講話・・・・・・・・山口県内の事故発生状況  
交通事故原因と自転車事故事例  
自転車の通行区分  
自転車に関する交通法規と遵守事項  
交通事故発生時の措置、損害賠償等  
標識に関する知識  
危険予測と認知の必要性



### ② 危険予測実験（約30分）

- 自動車の死角、二人乗り、傘さし運転等
- ダミー人形の衝突実験



## 3 成果と今後に向けて

自転車通学生の多い本校では、自転車の安全な乗り方、安全確認等の実技指導や、ダミー人形を使っての事故の実験は、安全意識の高揚に大変効果的であった。大きな事故もなく過ごしている。12月からは道路交通法も改正され、関係機関との連携による安全教育も一層重要となっている。

自転車による交通事故の絶無を目指すとともに、身の回りの様々な安全意識を高め、安心・安全な学校づくりの推進に努めたい。

取組名	火災発生時におけるより現実的な対応の模索		
特徴	自主的な判断力の育成及び伝えあう大切さ		
学校名	県立柳井商工高等学校	日時	平成25年12月4日(水)

## 1 ねらい

火災を想定した訓練であるが、より現実的な訓練を行うためブラインド方式を採用した。平常時の授業中を想定して行っている。訓練を行うことは、安全管理上予告はしているが、教職員にも要項は配布していない。生徒、教職員の自主的な判断を求めている。

本訓練において大切なことは、事後の指導が大切であり、教職員へのアンケート、生徒の感想文をもとに、学校独自のノウハウを蓄積していくこととなる。

## 2 概要

### (1) 事前に行うこと

訓練時に全てのことを一斉に行うのではなく、訓練前までに実施できることは行う。

#### ① 消火器の確認

所定の位置にあるか等

#### ② 消火係

屋内消火栓の操作確認

消火器の場所確認

#### ③ 搬出係

持ち出し書類の確認

#### ④ 救助係

負傷者がでた場合の対応を確認

#### ⑤ 警備係

防火戸、防火シャッターの確認

避難時の対応確認

#### ⑥ 避難・誘導係

緊急時の避難経路を想定しておく(様々な場所)。

人数把握の徹底

### (2) 現実的な訓練(生徒、教職員とも水曜3限の状態)

教職員には要項を配布しない(作成しない 事後アンケートが大切となる)。

生徒及び教職員ともに自分の判断で行う。

想定外の火災とする(災害は全て想定外)。

#### ① 訓練の流れ

事前に、事務室から機械警備会社と消防署に訓練火災の連絡(事務室)

訓練スタート(生徒は水曜3限の状態)

不審者がいるという情報

複数名の教職員で巡回

10:43 訓練火災発生

発生場所(普通教室棟西側2F階段、不審者がガソリンをばらまき放火、逃走)

※意図的に想定外の事態を想定する。

階段を通行できないようにする(コーンや机などの準備、負傷者を生徒から選出)。

※負傷者を見て、生徒はどのような反応をするか

教職員を配置して観察を行い、講評時に「助けようとしたか」、「教職員を呼びに  
いこうとしたか」、「障害物があることを伝えあったか」、生徒に確認する。



火災の連絡（大声で火事だ 第一発見者、一番近くにいる先生）

消火器を持って現場確認へ（複数名 職員室で教頭が指示）

119番に通報、警察（不審者対策）にも連絡

現場から正確な情報（場所、負傷者の有無等）

正確な場所を確認し、一斉放送

放送：「普通教室棟、2BB、2M付近の階段で訓練火災が発生しました。生徒の皆さんは、落ち着いてグラウンドに避難してください。（繰り返し）」

※普通教室棟2F階段（被服準備室近く）途中で障害物を設置

放送：「救護班の先生に連絡します。火災発生場所付近で生徒が2名負傷しております。救助をお願いします。」

※救護の教職員は近くにいる警備の教職員を呼び、生徒をグラウンドに避難させる。

※周辺にいる教職員は、それぞれの場所でベストな避難経路を生徒に指示をする。

事務長、総務部の教職員の中から一人、消防車を待ち、到着したら場所と状況を説明

（発生場所、負傷者の有無、逃げ遅れた生徒はいるか等）

生徒はグラウンドで整列。担任は点呼をとって生徒の避難を確認し、本部（教頭）へ報告する。

教頭は本部長（校長）へ報告する。

#### ②避難訓練講評

消防署担当者による講評（今回は日程が合わず事前にアドバイスを頂いた）

#### ③校長講評

#### ④解散

#### ⑤避難訓練終了を連絡（事務室）

#### ⑥教室に戻り、アンケート及び感想を記入

#### ⑦後日、アンケートをまとめ、課題については、消防署の指導を仰ぎ、全校集会または終業式後に全体指導



### 3 成果と今後に向けて

訓練後、教室に戻り生徒に感想を記入させる際、担任より、以下のことを確認することとした。

- ・落ち着いて行動することができましたか。
- ・落ち着いて行動するというのは、どういったことなのでしょう。
- ・これが本番だったらどう思いますか。
- ・突発的な災害にあっても落ち着いて行動できますか。
- ・階段においてある障害物を見たとき、後ろの人に伝えてあげましたか。
- ・グラウンドに集合したとき、協力的でしたか。
- ・負傷者役の人を見て、助けようと思いましたか。何も思わなかった人、もし、本番ならあなたは助けようと思えますか。
- ・自ら考え、判断できましたか。
- ・3年生の人へ、火災発生場所を聞いて、1、2年生を先に避難させたらいいと考えましたか。
- ・防災訓練は必要ないですか。

これらの確認事項を担当が、生徒とともに考え、振り返りの内容を充実させる工夫を行った。今回の訓練は初めての試みであり、今後、反省点をふまえ、改善していく必要がある。休み時間での訓練をどのようにするか、休業日など教職員が少ない人数の時はどう対応するか、学校にとって一番危険な時はどのような時なのか等、今後さらに対応を考えていく必要がある。

取 組 名	救助袋を使用した避難訓練の実施		
特 徴	下関西消防署との連携により、4階救助袋を使用した避難について学習した。		
学 校 名	県立下関中等教育学校	日時	平成25年6月25日（火）

## 1 ねらい

本校では、安心・安全な学校づくりをめざし、毎年、6月、12月、3月に防災訓練等を実施している。昨年度は、水消火器による消火訓練や傷病者運搬法の実演講習会、不審者対応に係る訓練を行った。そこで、この訓練では、校内に設置されている防災器具（救助袋）を活用した実演指導を受けることにより、生徒及び教職員の防災意識を高めることをねらいとした。

今年度は教職員の異動数が多く、これが初回訓練であったため、教職員や生徒に実施の予告を行い、避難前に火災時の注意や避難に係る説明・指導を行った上で、防火避難訓練を実施した。まずは、火災が起きた場合の対応や避難の方法を身に付けることをねらいとした。

## 2 概 要

- (1) チューター会…火災時の対応と避難時の注意について説明
- (2) 避難訓練…家庭科室から出火したことを想定し、グラウンドに避難
- (3) 西消防署署員の指導による4階救助袋（避難器具）を使用した避難実演
  - ・代表生徒6名（各学年生徒1名）と代表教職員2名（計8名）による実演
  - ・他の生徒は、教室棟前の駐車場に移動し見学
  - ・1・2年生教職員（4階使用学年）は4階で救助袋の使用方法を見学、救助袋の収納

## 3 成果と今後に向けて

避難経路を特に示さず、誘導する教職員の指示に従い避難した。教室棟の階段は混雑しやすいことを事前に知らせていたのだが、実際に避難を行い、混雑する様子を実体験したことにより、事後のアンケートには、“非常時の対応について、真剣に考えるきっかけとなった。また、消火器・消火栓の位置を確認しておくことの大切さを学ぶことができた”という感想が見られた。

1回生の生徒は、避難指示の放送で“特別教室棟の東側、家庭科調理室で…”と流れたにもかかわらず、火災発生や避難の正しい方向を指せた生徒が少なく、平素から、方角や校舎・教室の呼称等に慣れさせておく必要がある。

防災訓練に係る例年の熱心な取組が定着し、生徒は静かに迅速に避難したが、今後も、訓練といえども、生徒には真剣に緊張感をもって行動するよう、指導を継続していきたい。点呼については、少数ではあるが、生徒に点呼を任せた教職員がいたり、教職員の点呼が遅くなったりという反省点があげられたので、次回は改善していきたい。

救助袋の実演訓練では、日常的に関わるのがほとんどないため、生徒の関心は高かった。もっと多くの生徒や教職員に、救助袋の扱い方や注意事項を詳しく説明してほしいという要望があった。

6月の避難訓練では、生徒の安全意識の向上を図り、自らの命を守る能力を高めること、全教職員が本校における危機対応力を身に付けることを目標として訓練を行ったが、当初の目標をほぼ達成することができたと思われる。

12月には、防災教育として、東日本大震災に係るDVDを視聴し、さらには、下関西消防署長から、東日本大震災後の支援活動について講演を行っていただく予定である。3月の第2回避難訓練では、今年度の反省を生かし、より実践的な避難訓練を実施していきたい。

いつ発生するかわからない災害や危険から身を守るため、今後もいろいろな状況を想定して防災教育を実施し、教職員及び生徒の防災能力をさらに高めていきたい。

取組名	安全教室 3Days		
特徴	交通安全・生活安全に係る安全教育として、全校生徒を対象に、1学期の3日間で集中的に各種教室を実施し、安全について一層の意識高揚を図る。		
学校名	県立熊毛北高等学校	日時	平成25年6月5日(水) 6月6日(木) 6月7日(金)

## 6月5日(水)

### ①防犯教室

県警生活安全企画課と光警察署生活安全課との連携により、DVD視聴を中心にして不審者への警戒・注意についての説明と実技師範を交えた離脱方法など護身術の指導を受けた。護身術については、全校生徒で体験実習をした。



### ②薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室

光警察署生活安全課との連携により、薬物乱用の悲劇を描いたDVD視聴をし、薬物をめぐる健康影響や社会の現状などについて説明を受けた。

## 6月6日(木)

### ③情報モラル教室

「夕映えのみち」というドラマを視聴した。うわさ話や陰口などの人物評価をすることにより、悪口やいじめのつもりがなくても、知らず知らずのうちに相手に嫌な思いにさせたり、傷つけたり、人権を侵害していることになってしまうことや、インターネット社会では、その危険性を認識し、より高いモラルや情報を取捨選択する能力が必要であることに改めて気づくことができた。

## 6月7日(金)

### ④交通安全教室

全校生徒を対象に、自転車乗車中に起こりうる事故のケースや、自転車運転者の社会的責任や運転上の留意点について、映像で解説されたDVDを視聴させた。危険予測学習(KYT)資料集のイラスト入りのワークシートを一部に活用し、DVDの内容に即した視聴プリントを準備して、映像を途中で止めながら、危険を予測する学習を進めた。

### ⑤自転車点検

自転車通学許可ステッカーの貼付け状況や車体整備状況など、生徒交通委員や自転車通学生以外の生徒が点検者となる取組を全校体制で行った。

学校自転車乗り入れ生徒は87名 40.8%であるが、自宅最寄り駅等までの自転車利用生徒は67名 31.5%であり、全体では72.3%と通学に自転車を利用する生徒が多い。自転車通学生以外も点検に係わることで、全生徒の身近な乗り物である自転車運転の際の安全について、当事者意識の高揚にもつながった。

取組名	関係機関と連携した安心・安全な学校づくり		
特徴	外部講師による安全指導及び安全対策の検証		
学校名	県立小野田工業高等学校 定時制	日時	年間

## 1 ねらい

安心・安全な学校づくりに向けた取組を推進することにより、生徒一人ひとりが主体的に判断し、行動できる能力及び地域社会の安全に貢献できる態度を養う。

## 2 概要

### (1)交通安全教室

警察署と交通安全協会から講師を招き、交通安全ルールを守った自転車及び原付の運転方法を指導した。それぞれの生徒が所有する自転車及び原付を使用することにより、実践に即した指導をすることができた。同時に、安全点検を行って走行に問題のある箇所等も指摘し、改善を促した。

### (2)防災訓練

今年度は、防災アドバイザーを講師に招き、避難訓練を行った。内容は、地震発生後、避難経路上で火災が発生したことを想定し、避難経路を途中で変更するものであった。避難訓練後、防災アドバイザーによる学校の防災対策の検証も併せて行った。

### (3)防犯訓練

「拉致問題」横田めぐみさんのDVDを視聴し、日常生活の中においても、思わぬ被害に遭う可能性があることを知るとともに、拉致被害者の家族の心情を考え、自ら問題に直面したときのことを考える機会となった。

### (4)薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室

ライオンズクラブから講師を招き、薬物に関する基礎知識や、使用した場合の恐ろしさ、家族や周りの人に与える影響等を指導してもらった。

### (5)情報モラル教育

株式会社グリーンから講師を招き、インターネット、掲示板、SNS等の便利さの影に潜む危険性と、それに対する安全対策について指導してもらった。



## 3 成果と今後に向けて

これらの活動を実施した結果、生徒一人ひとりが主体的に判断し、行動できる能力及び地域社会の安全に貢献できる態度の育成を進めることができた。

今後は、さらなる安全意識の向上と、生徒が実際にそのような場面に遭遇した際に、危険を予測し、より適切な回避行動ができるように、指導の充実と徹底を図りたい。



取組名	防犯研修と不審者対応避難訓練		
特徴	教職員対象の防犯研修と不審者対応の避難訓練の二つの行事を、警察署生活安全課の協力をいただきながら実施した。		
学校名	県立田布施総合支援学校	日時	平成25年 7月17日(水) 10月 2日(水)

## 1 ねらい

- ・ 防犯研修を通して教職員の危機管理能力を高める。
- ・ 不審者が侵入した場合、人的被害を最小限にとどめ、迅速かつ安全に児童生徒が避難できるよう態勢を整える。

## 2 概要

### 〔防犯研修〕

- ◇実施日 平成25年7月17日(水)
- ◇内容
  - 実技(正門から不審者が侵入してきた想定)
  - 指導と講話(柳井警察署生活安全課員より)
    - ・ 不審者が学校内に侵入してきた時の対応について
    - ・ 護身術
  - 研修後、校長室にて助言、情報交換



### 〔避難訓練〕

- ◇実施日 平成25年10月2日(水) 2校時
- ◇内容 農園に不審者が出現する想定で行った。



<全体の流れ> ※実施要項に掲載したもの

現場(農園)	事務室	一次避難場所	各授業場所	集合場所(体育館)
①侵入者出現 ②対峙 ③阻止 ④避難・通報 ⑤負傷者救助	④第1報 ⑤応援・状況把握 ⑥通報 ⑦緊急放送 ⑧人員確認 ⑨安全確認・放送	④避難 ⑤集合・周辺警戒  ⑧状況報告 ⑨移動	⑤待機・周辺警戒  ⑧状況報告 ⑨移動	④避難   ⑨集合・人員確認 ・安全確認

## 3 成果と今後に向けて

- ◇ 防犯研修と避難訓練の両方を警察署員に指導していただいたことで、研修の内容が避難訓練に生かしているかどうかを見ていただくことができた。刺股の使い方は良い評価をいただいた。
- ◇ 侵入者への声かけについては、高圧的な言い方は避け、落ち着かせる話し方をしたほうがよい、とのアドバイスをいただいた。
- ◇ 警察署への通報について、計画では、通報の手順を現場確認者→事務室→警察署としていたが、携帯電話が普及している現在では、現場へは2名で行き、一人は現場から直接警察署へ通報・実況、もう一人は校内への情報伝達係をした方がよいとの助言もいただいた。
- ◇ 児童生徒への講話は、避難の際の留意点、「いかのおすし」をはじめとした、学校生活や外出時での注意点(大声を出す練習も)などで、現職警察官からのお話ということもあり、緊張感をもって真剣に聞くことができていた。
- ◇ 事後アンケートを実施したことで、連絡体制や施設の不備などの、検討、改善が必要な点が具体的になった。

取組名	緊急対応訓練		
特徴	児童生徒がいなくなった時の教職員の対応を訓練する。		
学校名	県立萩総合支援学校	日時	平成25年5月17日(金)

### 1 ねらい

- (1) 緊急時捜索体制の実効性を高め、児童生徒の安全を確保する。
- (2) 全教職員の共通理解を図るとともに、危機管理意識を高揚する。

### 2 概要

- (1) 日時 平成25年5月17日(金) 児童生徒下校後の放課後に実施
- (2) 内容

#### ①緊急対応訓練

<想定>〇〇さんがいなくなった。(子ども役の教職員が実際にいなくなるので放送をよく聞いて捜索する)

<捜索>別紙「緊急捜索体制」をもとに捜索する。

#### ②反省会

捜索隊が戻り次第、各学部で約10分程度、反省会及び課題を話し合う。

#### (3) その他

児童生徒の指導にあたる教職員は、捜索時の動きを確認後、(実際には児童生徒が不在であるので)校内の危険箇所の点検・確認をする。

#### (4) 訓練

○放送「〇〇部の〇〇さんの〇〇色の上靴が見あたりません。心当たりのある方は、至急連絡をお願いします(繰返し)。」

#### 初動捜索【校内重点】(約3分間)

- ・監視カメラの画像確認(事務室)
- ・手の空いた教職員で捜索(授業は継続中であるという設定)



○放送「1回目の放送をします。〇〇部の〇〇さんの〇〇色の上靴がなくて困っています。見つけられた方は至急連絡をお願いします(繰返し)。1回目の放送を終わります。」

#### 第1捜索体制【校内重点・校外初期捜索】(約5分間)

(実際には授業を中断し、各学部で子どもを集めて待機させる)

- ・事務室に捜索本部設置
- ・校外捜索隊が玄関前に集合し、子どもの情報を得てから捜索開始(徒歩や自転車を使用して捜索に当たる)



○放送「2回目の放送をします。上靴がまだ見つかっておりません。範囲を広げて捜してください(繰返し)。2回目の放送を終わります。」

#### 第2捜索体制【校外重点・第1捜索体制を維持したまま遠方捜索開始】

- ・遠方捜索隊が玄関前に集合し、子どもの情報を得てから捜索開始(自家用車を使用して捜索に当たる)

○発見・保護(部主事が捜索隊に連絡し、帰校確認)

### 3 成果と今後に向けて

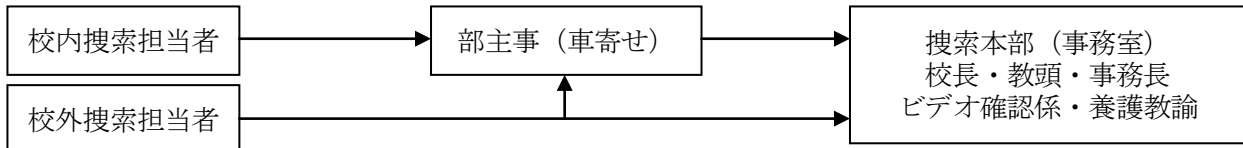
監視カメラの情報確認に時間がかかったが、第2捜索体制開始5分後に発見することができた。今後、以下の点について改善する。

- ・監視カメラの調整を業者に依頼するとともに、月1回、動作確認をする。
- ・小学部の児童管理は、1ヶ所に集めずに隣接学級で対応する。通学バスが待機している時は、通学バス内で管理する。
- ・校内全てのスピーカーから放送が流れるように調整する。
- ・個人の携帯電話を所持して捜索に当たるが、その際マナーモードを解除しておく。
- ・児童生徒の名前を呼びながら探す。1ヶ所で管理している児童生徒からも情報を集める。
- ・監視カメラの確認に時間がかかる時は、校外捜索隊出発後に携帯電話で情報を伝える。
- ・まちcomiメール(教職員一斉メール)を利用する。
- ・捜索担当者が不在の時は、待機生徒の管理体制を確認後、各部で調整し捜索に出る。
- ・過去の事例から新たに捜索場所を追加する。

資料「緊急搜索体制」（搜索場所の担当者名は削除）

1 初動搜索（3分間）

2 第1搜索体制（5分間・校内重点・校外初期搜索）



搜索場所及び児童生徒の校内待機場所

担当場所	事務室・保健室	小学部	中学部	高等部
校内	図書室、昇降口 車寄せ、食堂	体育館及び周辺 小学部棟内 教材室、トイレ	中学部棟内 中学部棟周辺	高等部棟内 高等部棟周辺 グラウンド
校外 (徒歩又は自転車)		山口福祉文化大学 方面	A方面（高架橋すぐ右小道から旧シーサイド） B方面（大学アパート小道）	C方面（美萩公園～コンビニ） D方面（住宅小道上り） E方面（山道上り）
待機	保健室 (養護教諭1名)	小ホール	図書室	高等部ホール

3 第2搜索体制（第1搜索体制を維持したまま遠方搜索開始）

搜索場所（自家用車で搜索）

シーマート・東萩駅方面	旧道から松陰神社方面	越ヶ浜・阿武町方面
-------------	------------	-----------

4 確認事項

- ・緊急時につき、個人の携帯電話を所持して搜索に当たる。
- ・各学部の自転車や教職員の自家用車を使用することがある。公用車は救護用に待機。
- ・搜索隊は学校へ連絡するが、通話中の時には部主事に連絡する。
- ・該当児童生徒の担任又は担当は搜索隊から外し、本部への状況説明や保護者への連絡に当たる。出張等で搜索隊がいない場合は、校内待機メンバーより代替者を出す。
- ・救護車の要請が必要な場合は、本部の指示により救護班が現場に行く。
- ・小さい子は、戸棚やロッカーに入る可能性もあるので、注意して搜索する。
- ・教職員の自家用車は必ず施錠しておく。
- ・年休等で教職員や部主事が不在の時の対処方法を各学部で確認しておく。

取組名	避難誘導訓練における車椅子の階段の降ろし方		
特徴	年2回の避難誘導訓練において各自の車椅子の階段の降ろし方の確認等		
学校名	県立周南総合支援学校	日時	平成25年6月19日(水)

## 1 ねらい

本校は、肢体不自由の児童生徒が大半を占めており、車椅子利用者が約9割いる中で、緊急避難時の階段の降ろし方について、安全に、速やかに避難する意識を高める。

## 2 方法

火災による避難誘導訓練(6月)、地震による避難誘導訓練(11月)の中で実施

## 3 内容

2・3階から避難する際、本校には階段、スロープ、エレベーターの3種類の方法があるが、実際に使われるのは主に階段である。

6月19日(水)2限に実施した火災避難誘導訓練の様子について述べてみたい。

### (1) 避難について

本来、避難場所は校舎前のロータリーになっているが、今回はあいにくの雨だったので体育館に避難した。階段の降り方について、従来個人で作成していたカードを、生徒部で「3人もしくは4人で後ろ向き」を原則とし、絵入りの統一したカードを作り、該当者に配布した。また、階段の降り方についても、車いすを抱えて降ろす場合は内側を、上がる教職員は外側を通ることが年々徹底されてきて、スムーズに行うことができた。体育館では、各学部毎に集合し、児童生徒及び教職員の点呼をした。消防署の方からは「他校に見られない真剣さを感じられ、避難に対する意識が高い」というお褒めの講評をいただいた。

### (2) 消火について

体育館で消防署の方の講評の後、体育館玄関前のピロティに移動し、水消火器による消火訓練を行った。まず、消防署の方が消火器の使い方を説明した後、教職員、児童生徒各3名ずつが、「火事だーっ」と叫び、水消火器を赤いコーンに向けて放水した。

### (3) 避難誘導係について

今までは、各学部の避難誘導係が、それぞれ東、北、西、中央の階段に行き、車いすを降ろし、終われば他の階段を手伝うという方法をとっていた。しかし、今回は予め各階段の担当を決め、そこだけを行う方法で行ったが、「こっち、手が足りません」ということもなく、例年よりスムーズに行えたように思う。

## 4 まとめ

今回は、①統一した絵入りカードの装着、②避難誘導係に予め各階段の担当を決めたことで、①では「絵入りカードがとてもわかりやすく、カードを素早く確認して協力して移動できた」、②では「階段の役割分担ができていたので、スムーズに行うことができた」等良い意見が大半を占めていたが、改善点も指摘されており、それを今後の避難訓練に活かしていきたい。

